指導案

はっきり断ろう　１

　　　月　　　日（　　　）

【１】　単元：Ｃ：伝える　　テーマ：意思伝達

【２】　教材：「はっきり断ろう１」　「断るのは【こ】【わ】【か】」

【３】　ねらい： １「断ること」は人とのよい関係を維持するうえでとても重要な行動の１つであることを理解する。

２「断り方のポイント」を知り、必要な場面で「自分も相手も納得する」断り

方ができるようにする。

【４】用意するもの：①掲示物１と２　②ﾜｰｸｼｰﾄ（ＡＢ両面刷りで）　③ロールプレイ台本

④振り返りシート

【５】実際の流れ

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 教師の動き | 生徒の動き |
| 導入  2分 | 今日のテーマ：「はっきり断ろう１」  　1 断るということについて考える  　「今日は断り方の練習です。みなさん日常生活の中で人に何かをお願いされる場面がありますよね。もし、快く手伝えるならそれに越したことはありませんが、時には相手のお願いを聞いたら、自分が困る場合があります。例えば、テスト前に『ノート貸して』とか、用事があるときに『一緒に遊ぼう』というような提案に対して。  もちろん相手との関係性ですぐに断れる場合もあるでしょう。でも、中には断りにくい相手（先輩とか、ちょっと苦手な友達とか、逆にいつも世話になってる人）だったらどうでしょう。我慢して相手の言うこときいてしまったことありませんか。  その時は相手が喜ぶので安心するけれど、後になって後悔したり、相手のことを恨んだりすることないでしょうか。  気持ちに反してムリに相手に合わせようとするから、その人を嫌いになったり、それを断れなかった自分を責めたりして、人間関係が壊れることもあるかもしれません。ですから（掲示物１を黒板に貼る）断るべき場面では『きちんと断る方が、人間関係が上手くいくこともある。』というのを覚えていて下さい。だからといって、どんな時もすぐに『無理無理！』って断ると、お願いした相手はどんな気持ちになるでしょうか？　実は（掲示物２を貼る）『自分（の気持ち）も大事にし、相手にも納得してもらえる話し方』があります。」 | これまでの生活であった「断る」という場面を思い出してみる。  断れるかどうかは、相手との関係性によって変わることがあると知る。  よい人間関係を維持するために、「断る」ことが必要な場面があることを知る。 |
| 本題  ２分  １分  ４分 | 2 断り方のポイント　（ﾜｰｸｼｰﾄを配る）  〇「断り方のポイント」のポイントが書かれた面を見るよう伝える。  「では、断るときのポイントです。　「断るのは【こ】【わ】【か】」  　「『はっきり、断り、その理由を述べ、できれば代わりの案を伝える』というやり方です。」（ポスターをみながら、具体的なセリフを読み上げる）  〇実際のセリフのやりとりは、裏面の下を見るように伝える。  3　モデリング  　（台本を一緒に演じてくれる生徒を探し、モデリングを行う。）  4　ペアでのロールプレイ  「では、ポイントを使って練習してみましょう。Ｂ面を見て下さい。断る場面が６つありますので30秒で目を通してください。(30秒計る)  （前後/又は左右で）ペアになってください。じゃんけんをして勝った人がA（お願いする方）、負けた方がB（断る方）です。1分あげますので、自分たちで場面を選び、実際の場面を想像しながら会話をしてみてください。その時に、断るポイントをきちんと意識しましょう。」  「では、ペアでロールプレイ始めて下さい。」（80秒計る）  「次に、役割を変えて下さい。（Bがお願いする、Aが断る）（60秒計る） | ポイントを確認する  モデリングで断り方の例を確認。  ペアになり、用紙の裏から練習する場面を選び、自分たちでロールプレイする。  断り方のポイントを意識する。  立場を変えて練習する。 |
| まとめと  振り返り  １分 | １　振り返り  「例えば、１の場面で、代わりの案としてどんなものが考えらましたか？  　　　（全体に投げかける）  断るのが苦手な人も、今日のポイントを思い出し、「よい人間関係を保つために上手く断る」ことができるようになるといいと思います。  また、断るのが得意な人も、「代わりの案を付け加える」と、相手の気持ちに配慮できることを覚えていて下さい。まずは、実際の場面でも、使ってみることです。」  ＊必要に応じて振り返りシートを記入させる。 | 答えの例  「一緒に勉強しよう」  「図書館で1時間貸す」  「写メって送る」等  振り返りを行う。 |

参考：『社会性と情動の学習（SEL-8S）の進め方　中学校編」　小泉令三・山田洋平著

ミネルヴァ書房